

「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」における

「端末利用者が施す措置の一覧表」の対応状況について

	項目	対応状況
端末や配信の 選択	気象庁が緊急地震速報(予報)・リアルタイム震度電文を発表してから端末が報知または制御を開始するまでに要する時間がトータルで1秒以内に行える 配信・許可事業者の利用を推奨	対応
	気象庁から端末まで、配信を途切れさせないような十分な対策をとっている 配信・許可事業者の利用を推奨	対応
	時刻の誤差が常に1秒以内となるよう時刻合わせを行っている 配信・許可事業者の利用を推奨	対応
	配信・許可事業者によるサポートが充実しているものを推奨	対応
	震度の予想手法として従来法と PLUM 法の両方の機能を有することを推奨	非対応
端末や回線等 に対して施す 措置	耐震固定等の地震の揺れへの対策をとることを推奨	対応
	無停電化の措置を講じることを推奨	端末利用者環境により対応
	端末の冗長化を推奨	端末利用者環境により対応
	常時接続できる回線が必須	対応
	専用線等信頼性の高い回線の使用を推奨	対応
サーバーと端末間の物理回線の冗長化を推奨	端末利用者環境により対応	

予想した猶予時間、到達予想時刻による制御、放送及び報知	猶予時間がない場合でも制御、放送及び報知を行うことを推奨	対応
	猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送、報知を継続させることを推奨	対応
	高層ビル等において長周期地震動階級等の予報やこれを用いた構造物の詳細な揺れの予報に基づく場合、到達予想時刻後もしばらくの間、制御、放送及び報知を継続させることを推奨	非対応
予想した震度、長周期地震動階級等及び構造物の詳細な揺れの大きさによる制御、放送及び報知	予想した震度等が設定値(*)を超えた時に制御、放送及び報知を行うことを推奨 (*) 制御先の耐震性能等や施設の安全性、端末利用者の必要性に応じて設定した値	非対応
	予想した震度や長周期地震動階級等による放送、報知の場合、緊急地震速報(警報)に整合する放送、報知を行うことを推奨	長周期地震動については非対応
	予想した構造物の詳細な揺れの大きさによる放送、報知の場合、長周期地震動階級・周期別階級で階級3以上に相当する大きな揺れが予想された場合に放送、報知を行うことを推奨	長周期地震動については非対応
	(オプション) 構造物の詳細な揺れの予報を行う場合は、予報が地震動の予報でないことについて予め明示している前提で、階層等を特定して強い揺れが来ることを放送、報知	非対応
精度情報等による制御、放送及び報知	複数観測点のデータに基づく緊急地震速報(業)による制御、放送及び報知、または緊急地震速報(警報)に整合する制御、放送及び報知を行うことを推奨	対応
	(オプション) 100ガルを超え緊急地震速報や1観測点のデータに基づく緊急地震速報(業)を、迅速な制御や制御の準備、また放送設備の起動等の準備に利用	非対応

深発地震についての緊急地震速報(業)による制御、放送及び報知	震度の予想手法が PLUM 法に基づく場合は制御、放送及び報知を行うことを推奨。一方、震度の予想手法が従来法に基づく場合は、制御、放送及び報知を行わないことを推奨。	非対応
	(オブション) 震度の予想手法が従来法に基づく場合でも、経験的に大きな揺れが観測される東日本の太平洋側地域等で制御、放送及び報知に利用	非対応
	緊急地震速報(警報)に整合する放送、報知を行うことを推奨	対応
	長周期地震動階級等の予報やこれを用いた構造物の詳細な揺れの予報に基づく場合、深発地震では制御、放送及び報知を行わないことを推奨	長周期地震動については非対応
緊急地震速報(業)で制御、放送及び報知を行った後に同一地震または別の地震について提供される緊急地震速報(業)による制御、放送及び報知	放送、報知の内容は変更しないことを推奨	対応
	予想した震度や長周期地震動階級等、構造物の詳細な揺れの大きさによって制御、放送及び報知を変えており、制御、放送の変更が可能な場合、かつ、新たに予想した値が大きくなる場合には、新たに予想した値に応じた内容で制御、放送及び報知することを推奨。一方、新たに予想した値が小さくなる場合の変更には十分な留意が必要	長周期地震動については非対応
	震度等の違いによって制御、放送及び報知の内容を変えていない場合や、制御、放送及び報知の開始後に内容の変更が許されない場合や利用者が対応できない場合は、制御、放送及び報知の開始後の緊急地震速報(業)は用いないことを推奨	対応
	長周期地震動階級等の予報やこれを用いた構造物の詳細な揺れの予報に基づく場合、高層ビル等においては、到達予想時刻後もしばらくの間は、揺れへの警戒を継続してもらうよう放送、報知を継続することを推奨。また、しばらく制御を継続する必要があることを考慮して、あらかじめ制御時間等を検討しておく必要がある。	長周期地震動については非対応

放送や報知による伝え方	緊急地震速報（警報）に整合している場合で放送、報知させる場合、NHK チャイム音を推奨。そうでない場合はNHK チャイム音以外の音源を推奨	対応
	（オプション）騒音等で放送が聞き取りにくい条件下において、認識しやすい報知音や文言で放送	対応
	（オプション）放送を聞く在館者等が対応可能なら、予想した震度等によって報知音や放送文言を変えて放送	非対応
	放送した後は、実際の震度等を放送することを推奨	端末利用者環境により対応
	予想した震度や長周期地震動階級等、構造物の詳細な揺れの大きさ、猶予時間は誤差が含まれるため具体は報知せず、素早く身を守ることを促す報知を推奨	長周期地震動については非対応
	予想誤差について理解していれば、具体的な予想震度や長周期地震動階級等、構造物の詳細な揺れの大きさ、猶予時間を報知する選択もあるが、震度の予想がPLUM法に基づく場合は具体的な猶予時間は報知せず、「まもなく到達」等の表現を用いることを推奨	長周期地震動については非対応
	耳の不自由な方へも伝わることを重要であるため、緊急地震速報（警報）に整合している場合は、放送や報知に合わせて、警告灯やフラッシュライト等を活用することを推奨	端末利用者環境により対応
キャンセル報の扱い	制御に利用した緊急地震速報（業）に対してのキャンセル報が提供された場合は、制御の解除やその判断に利用することを推奨	端末利用者環境により対応
	放送、報知に利用した緊急地震速報（業）に対してのキャンセル報が提供された場合は、キャンセルされた旨の放送、報知を行うことを推奨	端末利用者環境により対応
	制御または放送の準備に利用した緊急地震速報（業）に対してのキャンセル報が提供された場合は、準備を解除することを推奨	端末利用者環境により対応

	制御または制御の準備、放送または放送の準備、報知に利用しなかった緊急地震速報(業)に対してのキャンセル報は利用しない	対応
その他	テスト報を受けて行う試験の実施を推奨 なお、普段はテスト報を受けても動作しない設定とすることを推奨	対応
	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練の実施を推奨 なお、普段は訓練報を受けても動作しない設定とすることを推奨	対応
	配信・許可事業者の利用方法等について連絡することを推奨	対応

以上